



碧南ロータリークラブ週報

第2522回例会 平成22年10月27日(水)

● 会長 奥田 雪雄 ● 幹事 新美 宗和 ● 会場監督 (SAA) 伊藤 正幸

2010-2011年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90
- TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
- ホームページ: [http:// www.hekinan-rc.jp/](http://www.hekinan-rc.jp/)
- E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 会報委員 新美雅浩・鈴木健三・西脇博正・菅原 優



● 齊 唱

ロータリーソング「ロータリー讃歌」

● 本日のメニュー

季節のお弁当 とんがり帽子

● 本日のお客様

碧南市藤井達吉現代美術館 館長 木本文平様



碧南市藤井達吉現代美術館
館長 木本文平氏

会 長 挨拶

本日は「ロマンチック」なお話を。

遅まきながら秋を感じる今日この頃です。霜降、いわゆる秋が深まって霜が降りるという意味です。地球温暖化のせいでしょうか、初霜も年々遅くなっているような気がします。

暮れぬるようで暮れぬ秋の日は、暮れそうで暮れない春の日とよく対比されます。

こんな「秋の夜長」の静かなひと時は、本を読んだり、音楽を聴いたり、ゆったりと過ごしたいものです。

つい先日「こおろぎ」が庭先で鳴いているのを聞きました。秋の情緒をかきたててくれるのは、やはり「蟋蟀」「松虫」「鈴虫」などでしょうか。

万葉集のなかにも『庭先に村雨降りて蟋蟀の鳴く声聞けば秋づきにけり』庭の草に村雨が降り、雨上がりに蟋蟀が鳴く声を聞くと、もう秋も深まったなあ実感されます。ものさびしい秋の夕刻のゆっくりとした流れを感じさせる一首です。

また、新古今和歌集のなかにも、『あともなき庭の浅茅にむすぼほれ露のそこなる松虫の声』人の訪れた跡もなく生い茂る庭の浅茅にもつれるようにこもった声で、浅茅に結んだ露の底から聞こえてくる、人待ち顔に鳴く松虫の声は、という歌意です。もう長い間訪ねてくる人もなく、これからは来ないであろうと現実的にわかっていながら、心のどこかでもしや訪ねてくるのではなにか、訪ねてきてほしいといった気持ちがあって人恋しさを助長させております。

万葉集の時代は、単に虫の声をめでるものだったのですが、平安時代になると人々には、悲しいものとして聞いていたようです。

虫の声を単なる音としてではなく、声として聞くのは日本人の特徴だといわれておりますが、皆様はどのようなお気持ちで、あるいは思いで聞いておられますか。

秋の気配を感じながら、お話しをさせていただきました。



奥田雪雄会長

幹事報告

- お手元の幹事報告通りです。
- ロータリーレートが86円から82円に変更になりました。
- 本日、臨時総会「クラブ細則・委員会規定改正について」を行います。



新美宗和幹事

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数73名(内出席免除者15名の内出席者10名)出席者56名	
出席対象者 56/69名	出席率 83.58%
欠席者17名(病欠者1名)	前々回修正出席率 98.53%

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

〈ニコボックス委員会〉

- 長田 豊治君 本日の卓話の講師、木本文平碧南市藤井達吉現代美術館長をご紹介します。
- 木村 徳雄君 職場例会が無事に終わる事が出来ました。栗山さん始め会員の皆さんありがとうございました。
- 山中 寛紀君 先週職場例会は所用にて早退致し失礼しました。ドラゴンズ日本シリーズ優勝を祈念すると共に、グランパスのリーグ初優勝を待ち望む今日この頃です。
- 森田 雅也君 犬塚様、100kmウォークでお世話になりました。新入社員の女性がみごと歩いてくれました。ありがとうございました。
- 杉浦 栄次君 三河湾100kmチャリティウォークに出場しました。犬塚様を始め多くの皆様に支えられて、完歩することができました。感謝、感謝です。が…、筋肉痛と足のマメのため、明日のゴルフ例会が欠席となってしまいます。申し訳ありません。

臨時総会

- 「クラブ細則・委員会規定改定について」細則 第13条に従い改定の賛否を問い、会員全員の賛同を得ました。

卓話

「美術館・企画展のしくみ」 碧南市藤井達吉現代美術館 館長 木本文平氏

本日は、企画展の仕組みについてお話しをさせていただきます。
美術館のイメージは展覧会をやっているという印象が強いのですが、先ほどご紹介頂いた「千家十職×みんなぱく」は、美術館だよりの切り口で実施する展覧会で「造形」「ものづくり」の観点から美術館サイドのコンセプトによって企画したもので、単なる民俗資料の展示ではありません。



碧南市藤井達吉現代美術館
館長 木本文平氏

今回のコンセプトとしては、千利休以来、300年・400年続く職人技の視点から世界の民俗文化を観てみよう、それを民間サイドとして「ものづくり」とは何だろうと考え、美術館サイドとしてそれを「物を作るひとつの動作」と捕らえ、それに該当する作品を「千家十職」の作品として世界の民俗資料とコラボレーションという形で展示し、多くの作家や碧南の子供たちがそれを見ることによって、素晴らしい感性やインスピレーションが出てくればと思います企画したものです。

美術館はこういう企画をするのが主な活動だと思われがちですが、美術館の求めるところは

「コレクション」であり、その展示された作品の魅力を見ていただくことが究極の姿です。

昨今の美術館が企画展になりつつあるのは、コレクションがないから企画展で補っているというのが現状で、その中核を担っているのは国や県立ではなく、読売新聞・中日新聞などメディアが中心となって海外での折衝の中で大きな美術館の作品を招聘していくのが日本の伝統的な文化芸術の取り入れ方でしたが、現在ではメディア・新聞社が前面に出ることは無くなってきて民間が中心となってきました。

美術館の原点はコレクションであり、コレクションを持っていかに生かしていくか。その不足部分を企画で補い、企画展もその地域・歴史などの部分を生かしてやるのが美術館の役割と考えております。世界に通用するコレクションを持って来るのが一番良いのですが、地域の文化・歴史を伝えること、未来の感性を養う人材を育成すること、これも美術館の大切な役割であります。

今、碧南美術館はやっと動き出したところですが、藤井達吉という冠を掲げている以上、藤井さんの初期から晩年までひとつの代表作が集まった部屋が絶えずあり、そのうえで不足する部分を企画展で補っていけるのが美術館の力だと思います。

美術館が碧南で新しい文化の発信地になればと願って私の話とさせていただきます。

平成22年11月17日（水）卓話「私の履歴書」

新入会員 大竹密貴君、澤 徹君